

○ヒグマ管理計画目標の達成状況

「本計画の目標」	目標値	H28	H29	H30	H31	H32	H33	備考
①計画期間内における、斜里町、羅臼町及び標津町内でのメスヒグマの人為的な死亡総数の目安を75頭以下とする。(注4)	75 (5年計)	10						
②計画期間内における、ヒグマによる人身事故をゼロとする。	0 (5年計)	0						
③利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。	● (5年平均)	10						
④地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。	● (5年平均)	10						
⑤市街地(ゾーン4)への出没件数を半減させる。	● (5年平均)	2						
⑥斜里町における農業被害額及び被害面積を3割削減する。(注5、6)	● (5年平均)	○円、○m <sup>2</sup>						
⑦漁業活動(特に羅臼側の昆布番屋等)に関する危険事例の発生件数を半減させる。	● (5年平均)	3						
⑧ヒグマによる人身事故を引き起こさないための知識、ヒグマに負の影響を与えずにふるまうための知識を地域住民や公園利用者に現状以上に浸透させる。								

※「●」は計算中  
※数値は仮に記入したのみ

- (注4) 当該地域におけるヒグマの個体数に係る新たな知見が示されるなど状況に変化があった際には、その結果を踏まえ科学的な見地から人為的な死亡総数の目安について再考する。
- (注5) 本目標は、斜里町鳥獣被害防止計画より引用したものの。
- (注6) 標津町や羅臼町においてもデントコーンや牧草ロール等に農業被害が発生しているが、被害の発生頻度や被害額は斜里町と比較して少なく、被害として計上する状況には至っていない。  
したがって、目標には掲げずに被害状況を注視することとする。
- (注7) ③～⑧において基準とする年度及びそれらの達成状況を測るための年度については、それぞれの値の変動状況等を踏まえつつ、適切な設定を行う。

## ○その他の必要な調査・研究【実施状況】

○:実施 ×:未実施

項目	内容	実施主体	実施頻度	関連する「本計画の目標」	備考	実施状況					備考
						H29	H30	H31	H32	H33	
繁殖状況の調査	標識装着個体の追跡や遺伝子調査、外部的特徴による個体識別調査の結果から、毎年の産子数や生存率など繁殖状況を把握する。	知床財団、知床博物館、北海道大学	(毎年)	①	外見的特徴による個体識別調査は、実施地域が斜里町の一部(幌別・岩尾別地区、ルシヤ地区)に限定。平成29年までは継続、その後の実施は未定。						
血縁関係の把握	有害捕獲や狩猟により死亡したヒグマについて、個体識別のための遺伝子調査を実施、血縁関係を把握する。また、生体からもサンプルを採取して同様の調査を実施する。	知床財団、知床博物館、北海道大学	(毎年)	①	平成29年までは継続、その後の実施は未定。						
生息地利用様式や行動パターンの調査	標識装着個体の追跡等により、土地利用様式や行動パターンを把握する。	知床財団、北海道大学、知床博物館	(毎年)	⑤⑥⑦	捕獲地域が斜里町と標津町の一部に限定。北大・博物館による調査は平成29年までは継続、その後の実施は未定。						
問題個体数の動向把握	出没情報を基にヒグマの問題個体数を推定する。	環境省、知床財団、道環境研	毎年	②③④⑤⑥⑦	標津町では実施なし。 ※実施主体については調整中。						
観光船からのヒグマの目撃状況	観光船からのヒグマの目撃状況(頻度・構成)から、ヒグマの生息状況を把握する。	知床ウトロ海域環境保全協議会	毎年	①	ウトロ港発着の観光船でデータを採取。						
ミズナラ結実調査	ヒグマの餌となるミズナラ堅果について、シートトラップを設置して、個数と重量を計測する。	林野庁	毎年	-	斜里町の2カ所(岩尾別・イダシュベツ)で実施。						
サケ科魚類遡上調査	サケ科魚類の遡上状況を調査する。	林野庁、北海道	隔年	-	河川工作物の改良等に関連して実施。						
遺産地域からの移動分散状況の調査 (広域的な捕獲個体との遺伝子情報の対比など)	標識個体の追跡、遺伝子情報の対比等により、遺産地域から知床半島基部、さらには道東各地へのヒグマの移動分散状況を把握する。	知床財団、知床博物館、北海道大学	未定	⑤⑥⑦							
最低メス個体数カウント調査(出没記録)	出没情報等を基にメスヒグマの最低確認頭数を推定する。	環境省、斜里町、羅臼町、標津町、知床財団、道環境研	毎年	①	※実施主体については調整中。						
最低メス個体数カウント調査(DNA分析)	DNA分析結果を基にメスヒグマの最低確認頭数を推定する。	知床財団、知床博物館、北海道大学	毎年	①							
糞カウント調査	設定したコース上でヒグマの糞を調査し、糞発見頻度を計測、DNA分析結果を合わせて広域的な密度を把握する。	知床博物館、環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町、標津町、知床財団	未定	①	実施方法・体制等を検討中。						
広域ヘアトラップ調査による生息数推定	毛根から採取した遺伝子情報により、個体数を推定する。	未定	未定	①	実施方法・体制等について検討が必要。						

## ○知床半島ヒグマ管理計画に係るモニタリング項目(詳細)【実施状況】

○:実施 ×:未実施

モニタリング項目	モニタリング内容	実施主体	実施頻度	関連する「本計画の目標」	備考	実施状況					
						H29	H30	H31	H32	H33	備考
人為的死亡個体に関する情報収集	有害捕獲個体の頭数・齢構成・繁殖状況・胃内容物・遺伝子情報・捕獲要因等の解析	斜里町、羅臼町、標津町、知床財団、道環境研	毎年	①③④	サンプル収集は継続実施可能だが、分析に関しては遅滞する可能性あり。						
	狩猟個体の頭数・齢構成・繁殖状況・胃内容物・遺伝子情報等の解析			①	狩猟個体のサンプルは確実に収集されている訳ではない。分析に関しては遅滞する可能性あり。						
ヒグマ目撃アンケート	ヒグマ目撃アンケートにより出没情報を収集、ゾーン・行動段階ごとの出没状況の解析	斜里町、羅臼町、知床財団	毎年	③④⑤⑦	標津町内については実施なし。組み込み可能か要検討。						
農林水産業被害統計・被害発生状況	斜里町におけるヒグマの農業被害金額の集計	斜里町、JA斜里	毎年	⑥	標津町や羅臼町においても農業被害は発生しているが、被害の発生頻度や被害額は斜里町と比較して少なく、被害として計上する状況には至っていない。						
	斜里町におけるヒグマの農業被害面積の集計										
	羅臼町・標津町における農業被害の発生件数と内容	羅臼町、標津町									
	斜里町・羅臼町・標津町における漁業活動に関わる被害や危険事例の発生件数と内容	斜里町、羅臼町、標津町									
出没や被害に関する通報・対応件数と対応状況	ゾーン・行動段階ごとの出没状況の解析	環境省、斜里町、羅臼町、標津町	毎年	③④⑤⑦							
	人身被害・危険事例の発生状況の集計			②③④⑦							
	ゴミの投棄等、地域住民による問題行動に関する情報の集計			④⑧							
	餌やり等、利用者による問題行動に関する情報の集計			③⑧							
	ヒグマに関係する遊歩道等の閉鎖状況			③⑧							
学校教育や社会教育における地域住民への普及啓発活動	普及啓発活動の活動内容及び回数集計	斜里町、羅臼町、標津町、知床財団	毎年	⑧							
施設等における利用者への普及啓発活動	普及啓発活動の活動内容及び回数集計	環境省、斜里町、羅臼町、標津町、知床財団	毎年	⑧							
住民や利用者によるヒグマ及び対策への意識調査	ヒグマに関する意識調査を地域住民等を対象に実施	環境省、斜里町、羅臼町、標津町、北海道大学	未定	⑧	今後実施方法、体制等を検討。関係機関等が行う各種アンケート調査へ共通の項目の組み込みを検討。住民向け調査は期間中に1回程度の実施を検討。						